

北海道観光の現況

2017



北海道経済部観光局

平成29年10月



キョんちゃん (北海道観光PRキャラクター キョんちゃん)

目次

1	北海道観光の現状	
	(1) 観光入込客数の推移	・・・1
	(2) 観光客の動態	・・・5
	(3) 観光産業の状況	・・・11
2	北海道の観光振興施策	
	平成29年度観光局の施策体系	・・・16

【参考資料】

- ・観光入込客数(延べ人数)の推移
- ・その他の観光統計指標(前年同月比)
- ・主な観光資源(自然公園、ラムサール条約登録湿地、世界遺産、北海道遺産等)
- ・観光圏の認定状況
- ・広域観光周遊ルートの認定状況
- ・JNTO認定外国人観光案内所(ビジット・ジャパン案内所)
- ・航空路線網図
- ・航空路線別輸送実績
- ・平成29年度 地域政策推進事業・観光関連分
- ・北海道観光のくにづくり条例
- ・北海道観光のくにづくり行動計画(概要)
- ・北海道観光審議会委員

1 北海道観光の現状

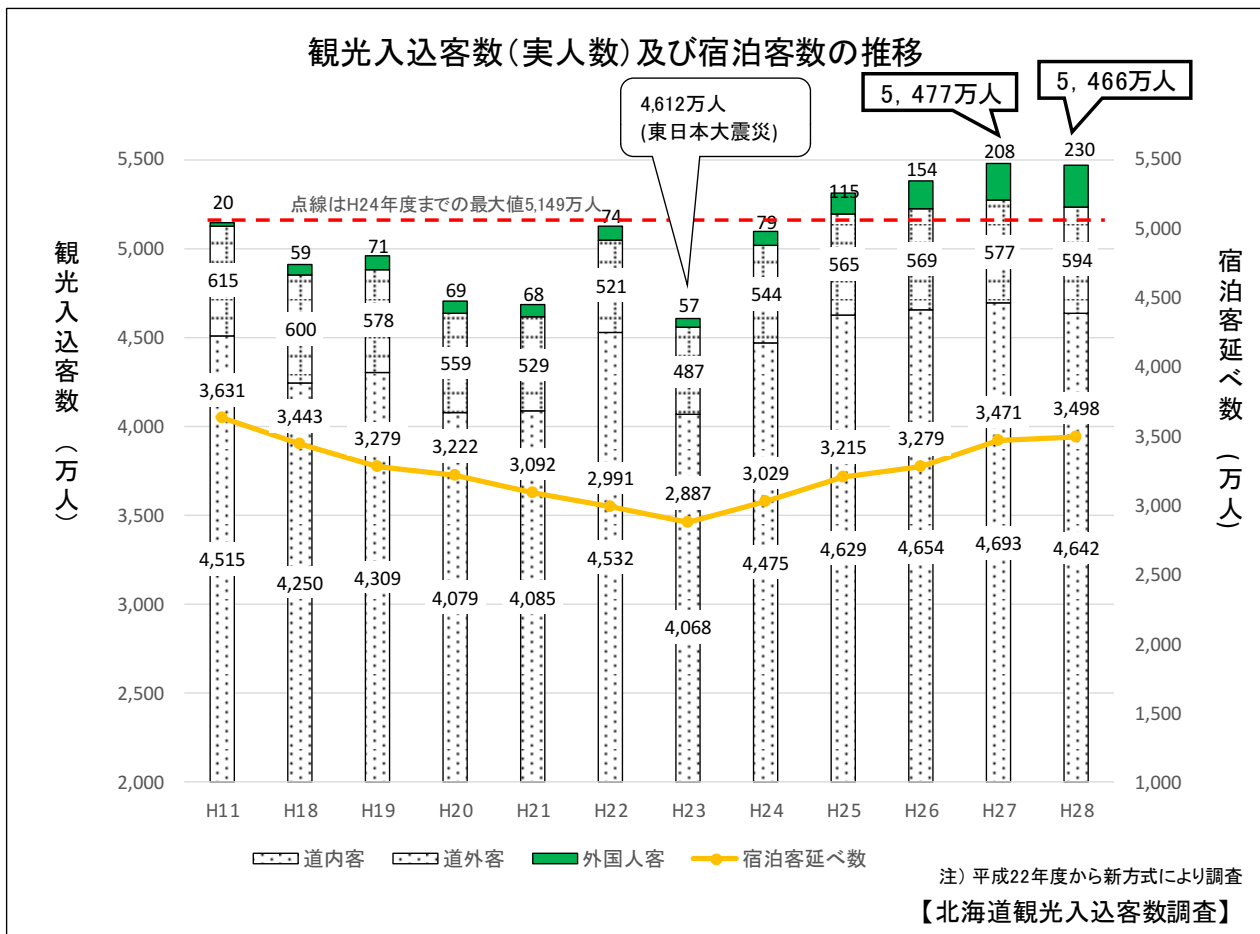
(1) 観光入込客数の推移

■ 観光入込客数、外国人来道者数ともに増加基調

北海道の観光入込客数(実人数)は、平成23年度は東日本大震災の影響などにより落ち込んだが、平成24年度は観光需要が回復基調に転じ、さらに平成25年度以降は景気の回復に伴い、国内外の観光需要が堅調に推移したことなどから、平成27年度は5,477万人となり過去最高を更新した。平成28年度は北海道新幹線開業があったものの、相次いで接近・上陸した台風の影響などから前年度に達せず5,466万人となった。

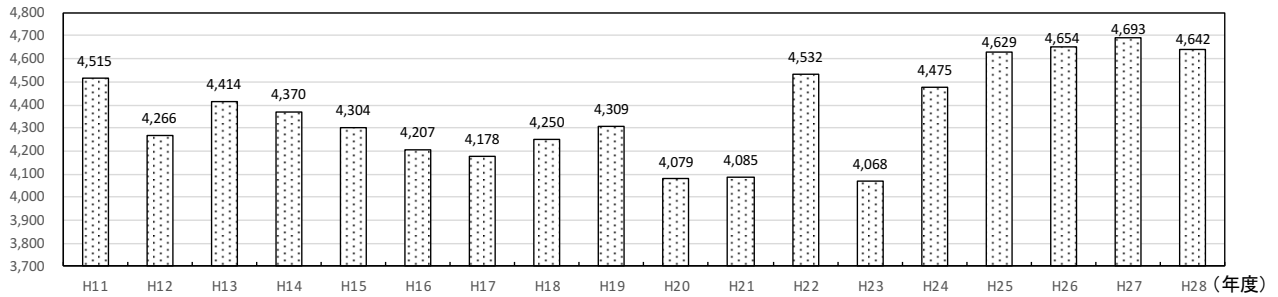
観光入込客数が増加基調にある中、観光消費額の高い道外客の入込は、平成11年度の最高値(615万人)を超えておらず、伸び悩みの傾向にある。また、北海道の延べ宿泊者数は3,498万人泊(前年度比0.8%増)で、全国(49,239万人泊)の7.1%を占めており、都道府県別では東京都に次いで第2位となっている。

訪日外国人来道者数は、平成24年度以降、国際定期便の新規就航や増便、査証要件の緩和、免税制度の拡充、円安基調の継続などから回復し、平成28年度は230万人(前年度比10.6%増)と、過去最高を更新し、日本全体の訪日外国人旅行者2,482万人の9.3%を占めている。



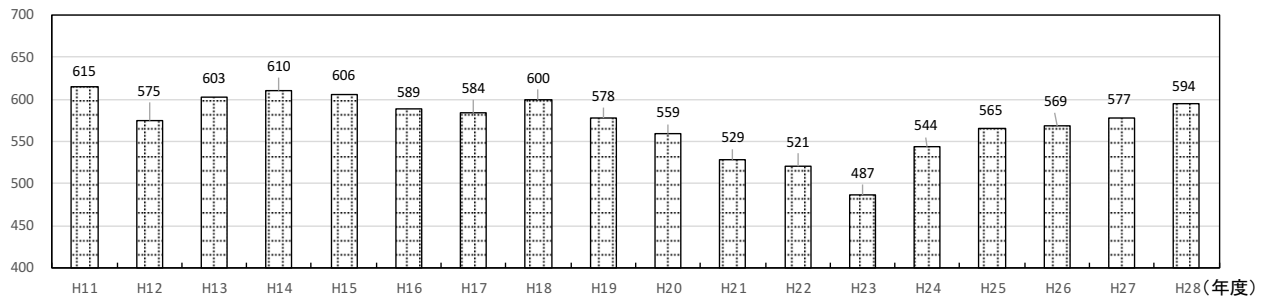
(万人)

道内客の推移



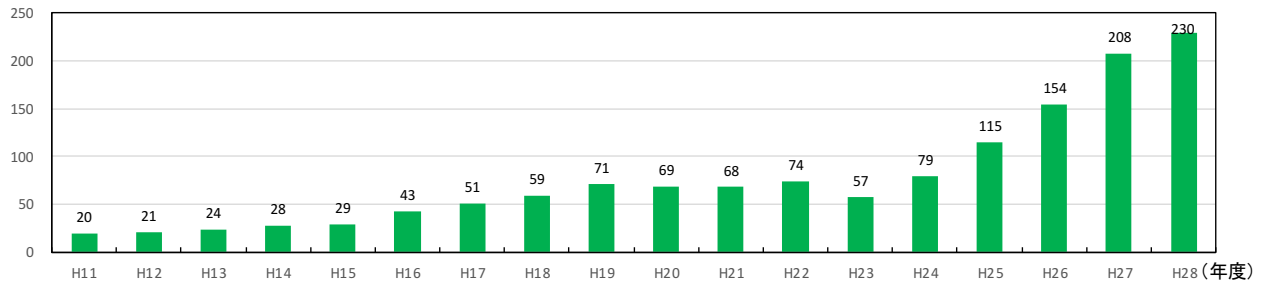
(万人)

道外客の推移



(万人)

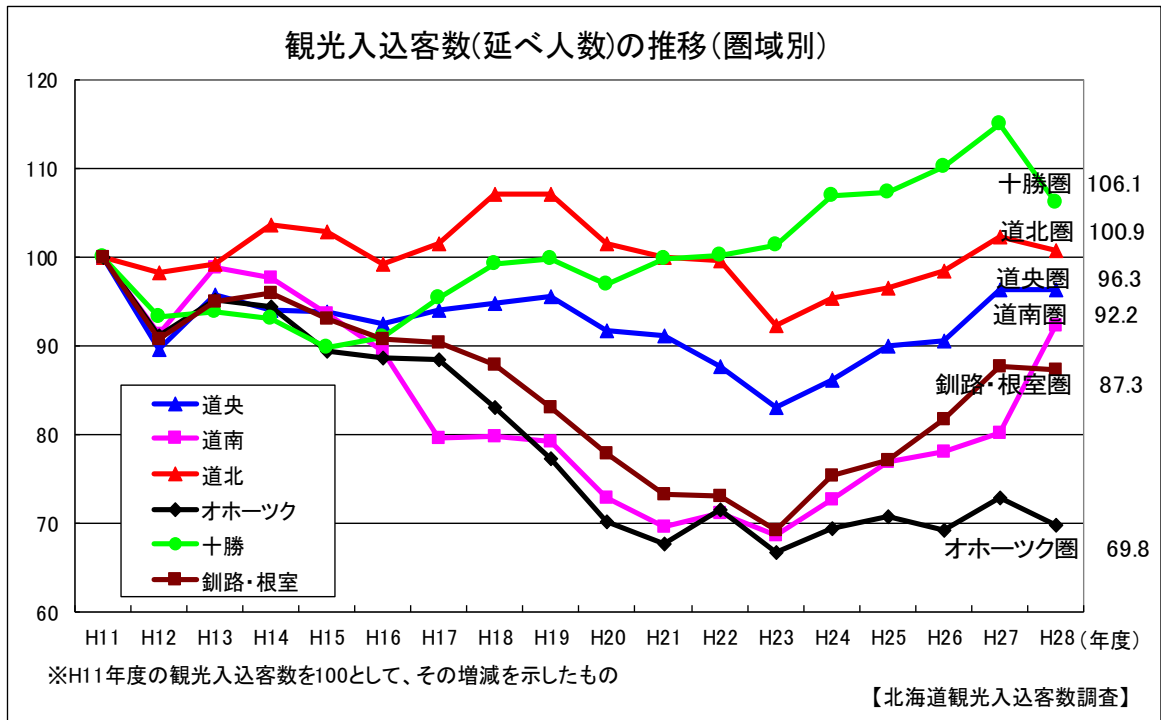
外国人客の推移



注)平成22年度から新方式により調査
【北海道観光入込客数調査】

■ 圏域別では十勝圏、道北圏が増加

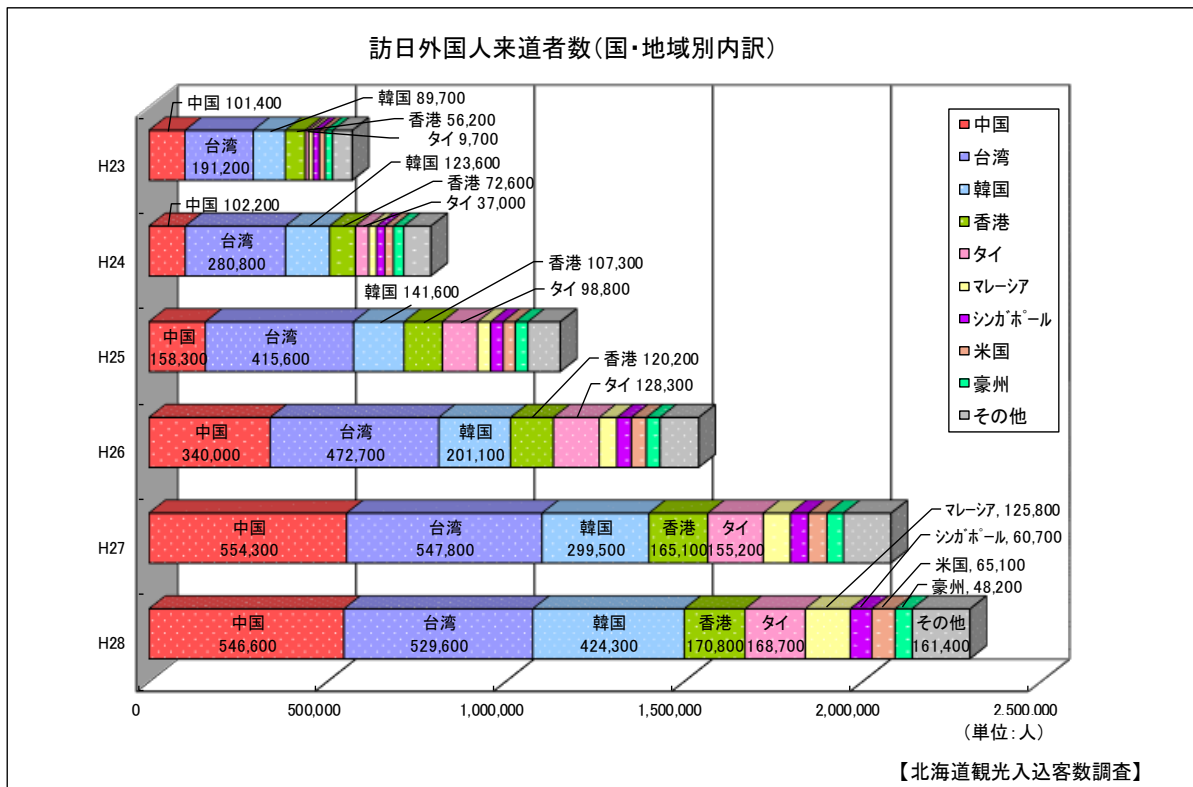
圏域別にみると、6圏域とも平成23年度以降は増加傾向にあるものの、平成11年度の入込客数を100とすると、十勝圏(106.1)、道北圏(100.9)は増加しているが、他の4圏域は減少している。十勝圏の伸びは、道東道の開通による交通アクセス向上の効果などが大きいと考えられる。前年度と比較すると、北海道新幹線の開業効果を大きく受けた道南圏が増加したが、他の5圏域は台風等の影響により前年度を下回った。



■ 著しい伸びのアジア地域

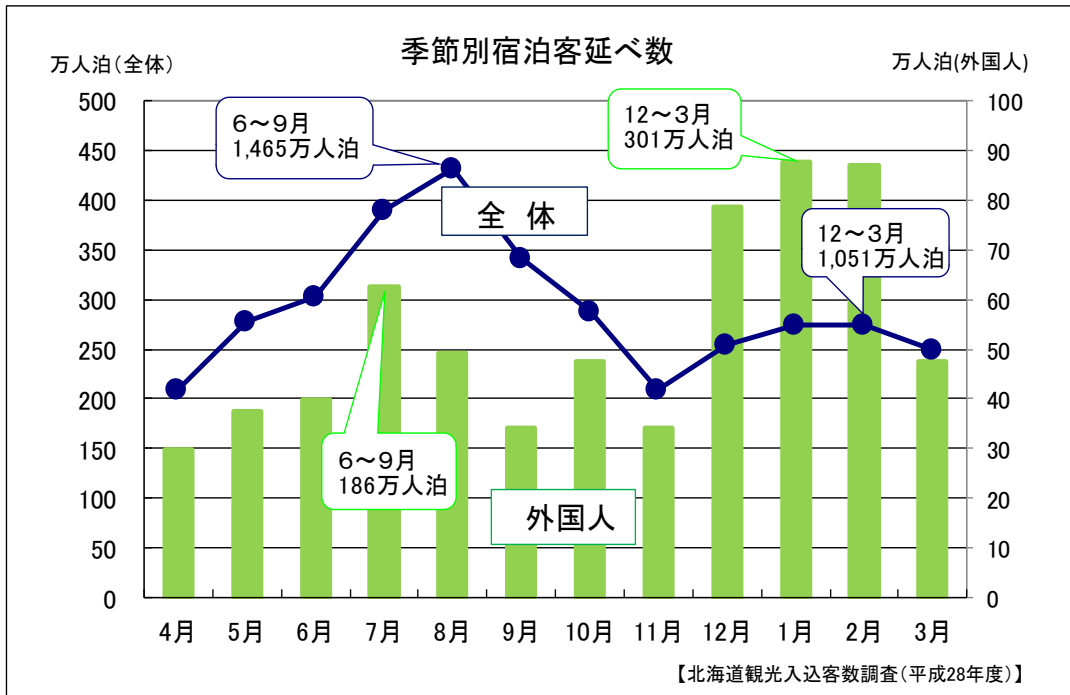
平成 28 年度に本道を訪れた外国人観光客は、国際定期便の新規就航や増便などから前年度に比べて10%増加し、230 万人となり、過去最高を更新した。

国・地域別にみると、大きな割合を占める中国、台湾の伸びが一服した一方、北海道人気が高まっている韓国が前年度比42%増と大きく伸びた。



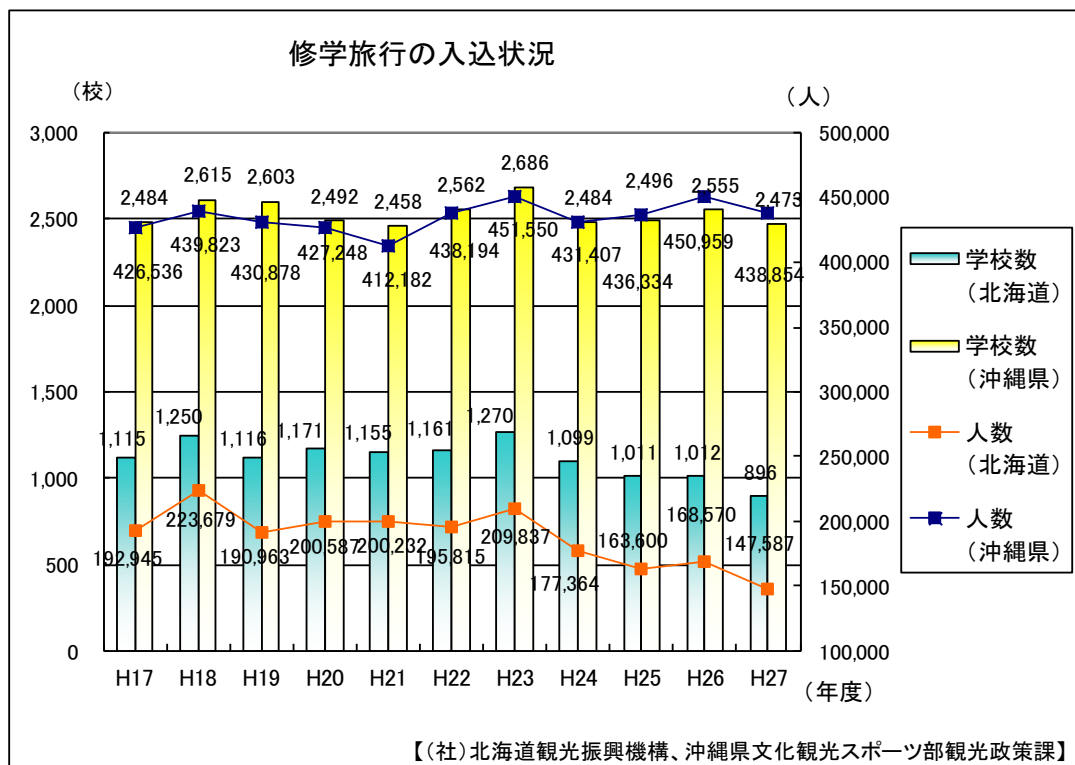
■ 夏季に集中する観光客

平成 28 年度の観光客の延べ泊数（3,498 万人泊）を季節別にみると、年間の約 4 割が夏季（6～9 月）に集中し、冬季（12～3 月）は約 3 割にとどまっている。一方、外国人は、夏と冬の 2 つのピークがある。



■ 修学旅行の受入

北海道への修学旅行は、平成 23 年度に震災の影響による旅行先の道内への振替などから増加したが、平成 24 年度以降は減少傾向にある。旅行業者等によると、北海道への修学旅行は平成 11～12 年頃までは全国トップクラスであったものの、平成 15 年度以降は沖縄県へのシフトが進み、現在では沖縄県の半数以下に減少している。



高等学校における修学旅行宿泊地の推移

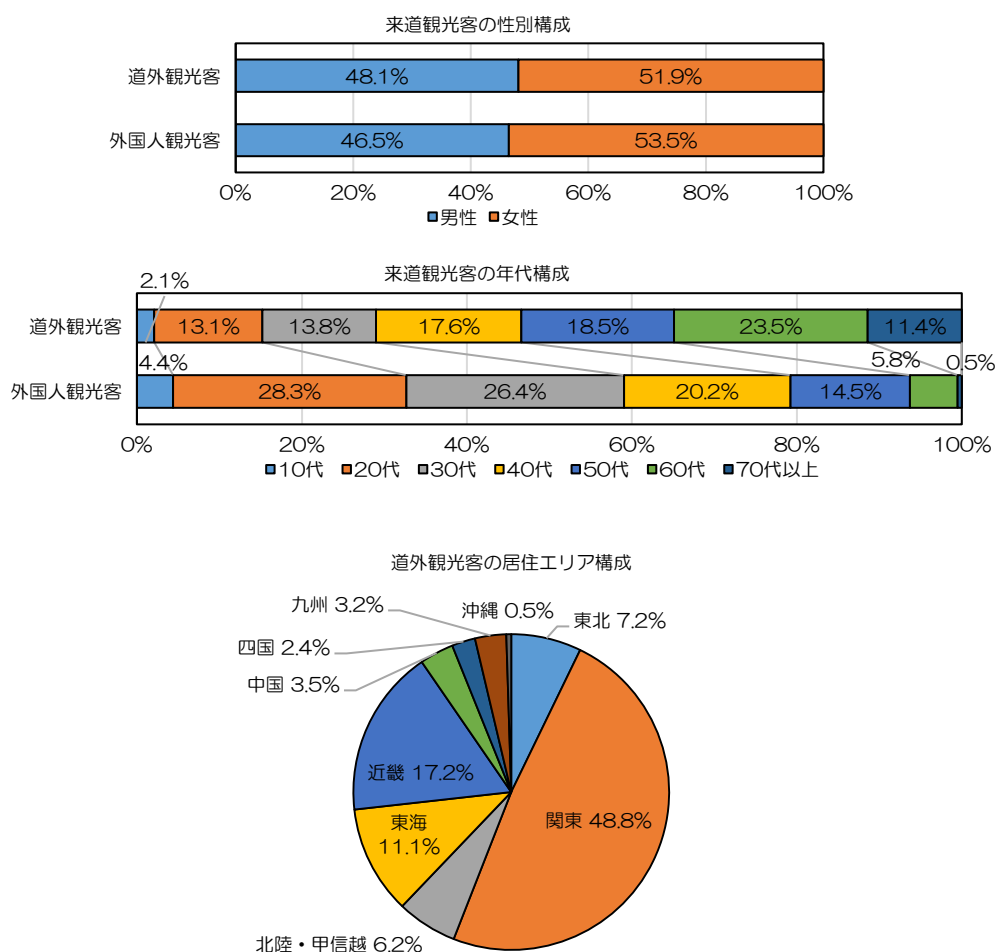
	1位	2位	3位	4位	5位
平成11年度	北海道	京都	沖縄	長野	長崎
平成13年度	北海道	京都	長野	沖縄	長崎
平成15年度	沖縄	北海道	京都	長野	長崎
平成16年度	沖縄	北海道	京都	長野	東京
平成18年度	沖縄	北海道	京都	長野	東京
平成20年度	沖縄	北海道	京都	東京	長野
平成22年度	沖縄	北海道	京都	東京	長野
平成24年度	沖縄	北海道	京都	長崎	千葉
平成25年度	沖縄	北海道	京都	東京	長崎
平成26年度	沖縄	北海道	京都	千葉	長崎
平成27年度	沖縄	北海道	京都	東京	千葉

【公益財団法人日本修学旅行協会 教育旅行年報】

(2) 観光客の動態

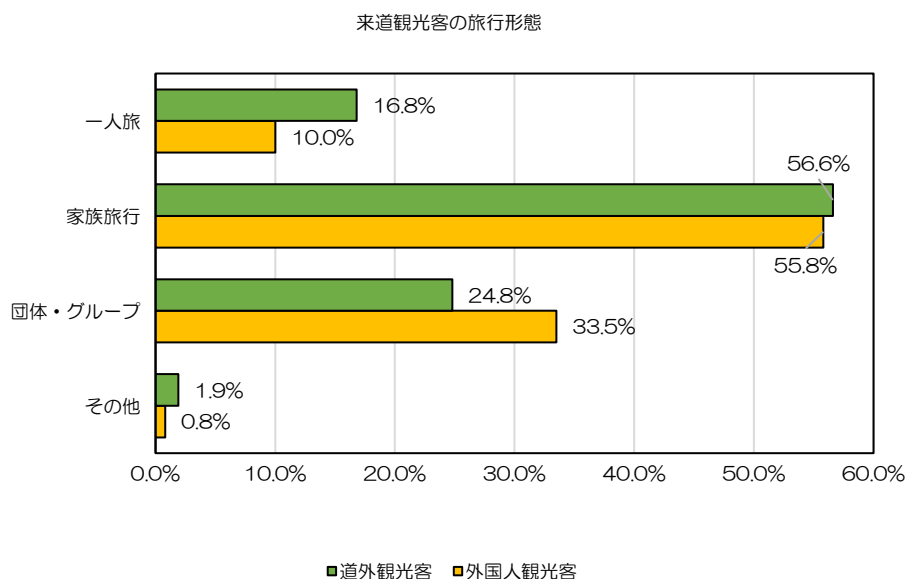
■ 来道観光客の属性

北海道を訪れる観光客の属性をみると、道外及び外国人観光客ともに性別では、男性より女性が多い。年齢別では、外国人観光客の方が比較的若い年代が多く、20代、30代、40代の順で多いのに対し、道外の観光客は、60代が最も多く、50代、40代の順となっている。道外から来る観光客の居住地では、関東が48.8%と群を抜いて多くなっている。



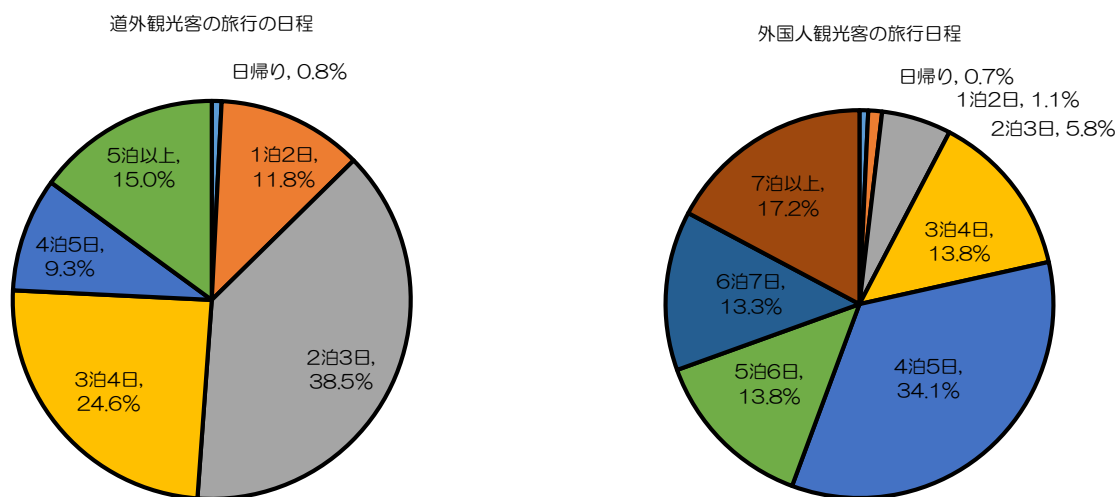
■ 家族旅行が大半

来道観光客の旅行形態をみると、家族旅行が大半を占めており、外国人観光客については、団体・グループも全体の3分の1を占めていることから、FIT化の流れの中でも、団体旅行の需要についても一定程度あるものと思われる。



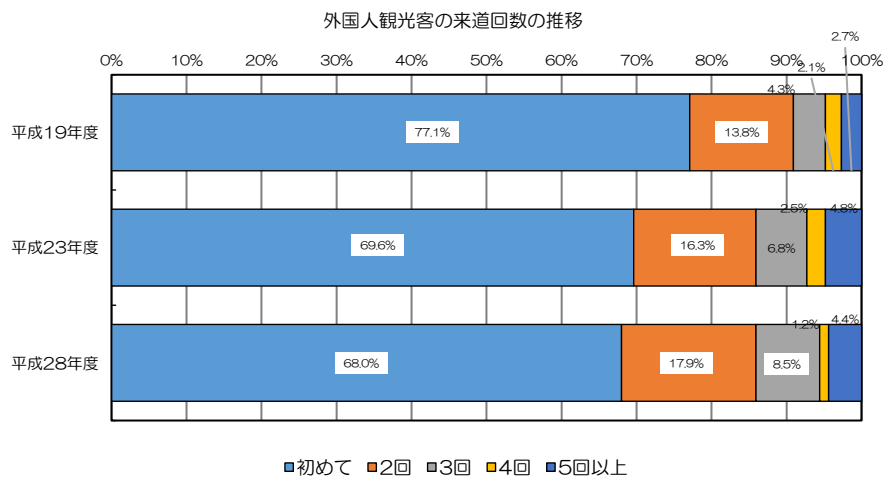
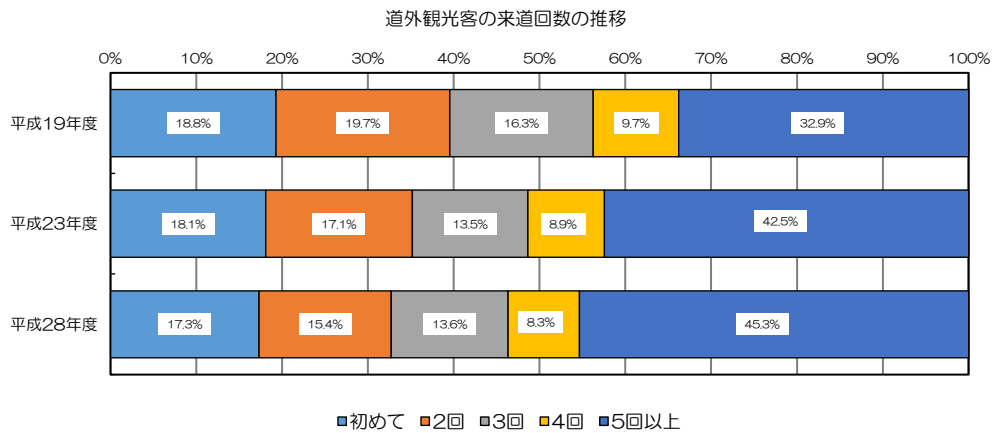
■ 外国人観光客は長期滞在者が多い

来道観光客の旅行日程をみると、道外の観光客で最も多い日程が2泊3日、次いで、3泊4日となっている。また、外国人観光客は、4泊5日が最も多く、次いで、7泊以上と長期滞在者が多い。



■ 道外観光客の8割がリピーター、外国人のリピーターも増加

道外の観光客のうち、80%以上が過去に北海道を訪れた経験があるリピーターで、5回以上の来道経験を持つ「北海道ファン」は45%を超えている。また、外国人観光客のリピーターも増加傾向にある。



■ 自然や花の人気の上昇

道外の観光客の目的では、「都市観光」、「自然鑑賞」、「特産品の買物・飲食」、「温泉・保養」が上位を占めている状況に変化はないが、「花の名所めぐり」の人気の高まってきている。外国人観光客の目的では、自然に対する観光需要が高まっており、全体の約8割が行程の中で「自然鑑賞」をしているという結果になった。

《道外観光客の旅行目的の推移》

■平成28年度		■平成23年度(参考)		■平成19年度(参考)	
1 都市観光	53.9%	1 都市見物・観光名所めぐり		1 都市見物・観光地名所めぐり	
2 自然鑑賞	45.7%	2 自然鑑賞		2 自然鑑賞	
3 特産品の買物・飲食	35.4%	3 特産品の買物・飲食		3 温泉・保養	
4 温泉・保養	32.7%	4 温泉・保養		4 特産品の買物・飲食	
5 花の名所めぐり	14.4%	5 ショッピング		5 テーマパーク・遊園地	
6 動物園・水族館	14.3%	6 動物園・水族館		6 イベントへの参加・見学	
7 ショッピング	13.7%	7 ドライブ		7 花の名所めぐり	
8 ドライブ	13.4%	8 道の駅めぐり		8 ドライブ	
9 道の駅めぐり	9.7%	9 イベント参加・見学		9 スキー・スノーボード	
10 テーマパーク・遊園地	3.7%	10 花の名所めぐり		10 美術館など文化施設めぐり	

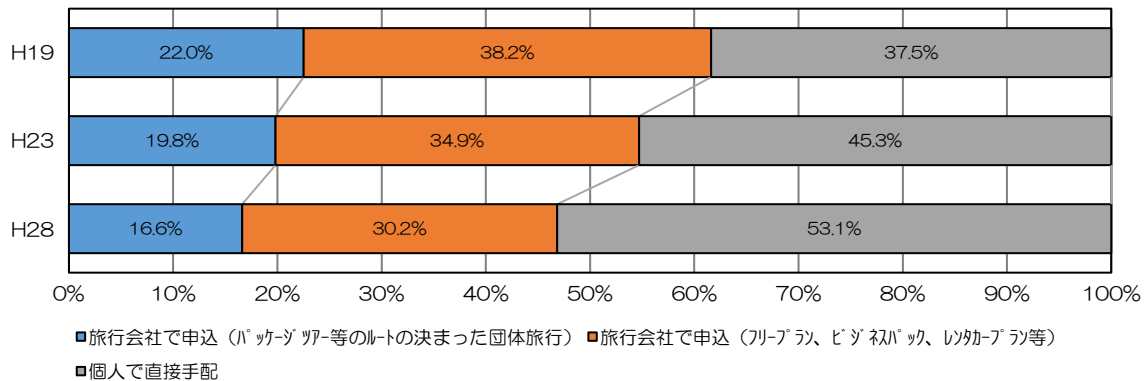
《外国人観光客の旅行目的の推移》

■平成 28 年度			■平成 23 年度（参考）			■平成 19 年度（参考）		
1	自然鑑賞	79.4%	1	都市見物・観光名所めぐり		1	自然鑑賞	
2	都市観光	62.3%	2	温泉・保養		2	温泉・保養	
3	温泉・保養	53.4%	3	自然鑑賞		3	買い物	
4	特産品の買物・飲食	49.4%	4	ショッピング		4	都市見物・観光名所めぐり	
5	ショッピング	40.1%	5	特産品の買物・飲食		5	名物の飲食	
6	花の名所めぐり	26.0%	6	花の名所めぐり		6	花の名所めぐり	
7	動物園・水族館	13.9%	7	動物園・水族館		7	冬のイベント(雪や氷)	
8	道の駅めぐり	7.1%	8	スキー・スノーボード		8	スキー・スノーボード	
9	スキー・スノーボード	6.7%	9	イベント参加・見学		10	テーマパーク・遊園地	
10	産業遺産・工場見学などの産業観光	4.6%	10	道の駅めぐり		10	夏のイベント	

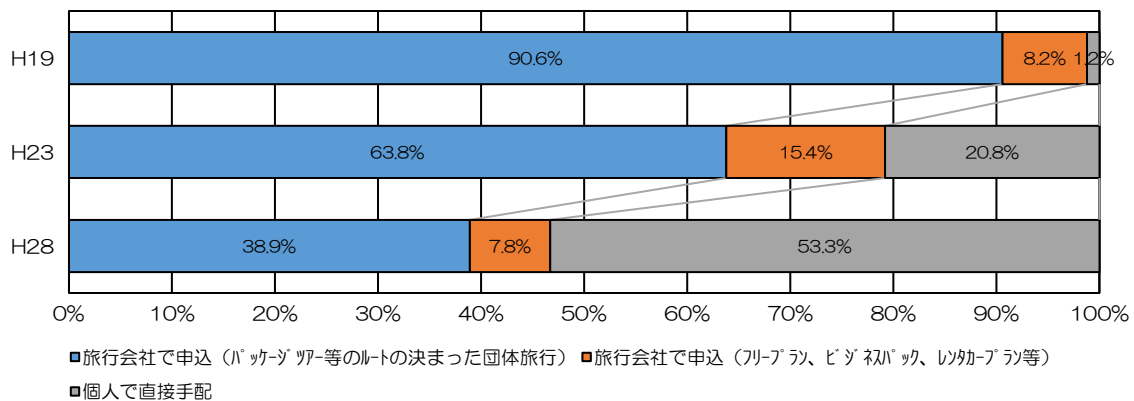
■ パッケージツアーの利用者は減少

パッケージツアーの利用状況を見ると、道外の観光客、外国人観光客ともに「個人で直接手配」が増加傾向にあり、特に、外国人観光客のFIT化が顕著に見られる結果となった。

道外観光客のパッケージツアー利用状況の推移

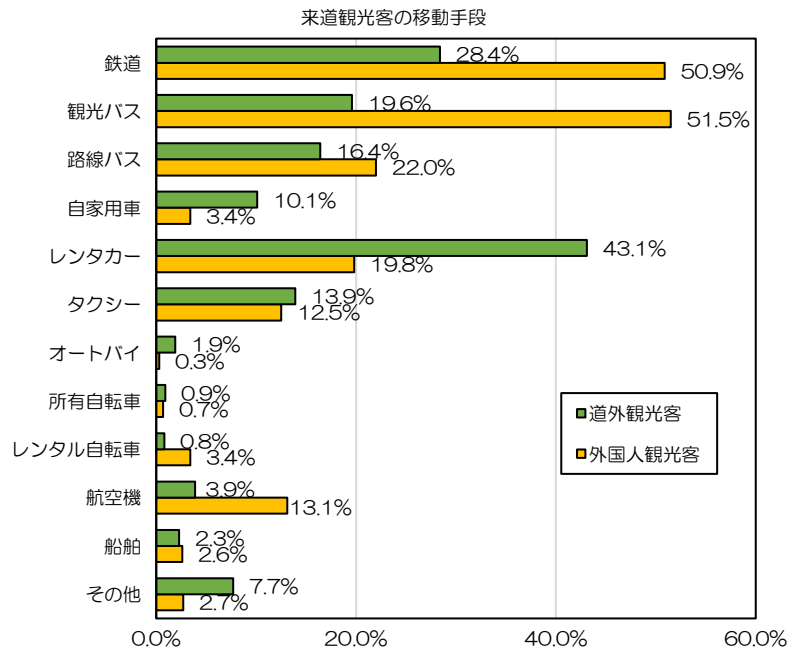


外国人観光客のパッケージツアー利用状況の推移



■ 異なる移動交通手段の特徴

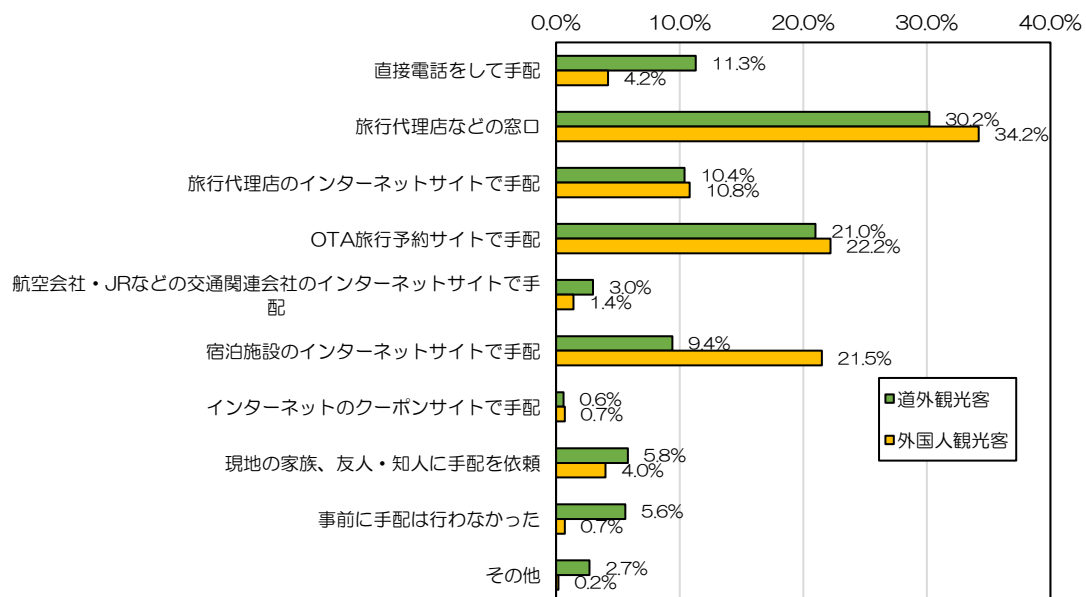
北海道内における移動交通手段をみると、道外の観光客が最も利用しているのは、「レンタカー」であり、次いで「鉄道」、「観光バス」、「路線バス」となっている。一方で、外国人観光客が最も多く利用しているのは、「観光バス」で、ほぼ同程度「鉄道」も利用されており、移動交通手段の特徴が異なる結果となった。



■ ネット化が進む一方で窓口手配も健在

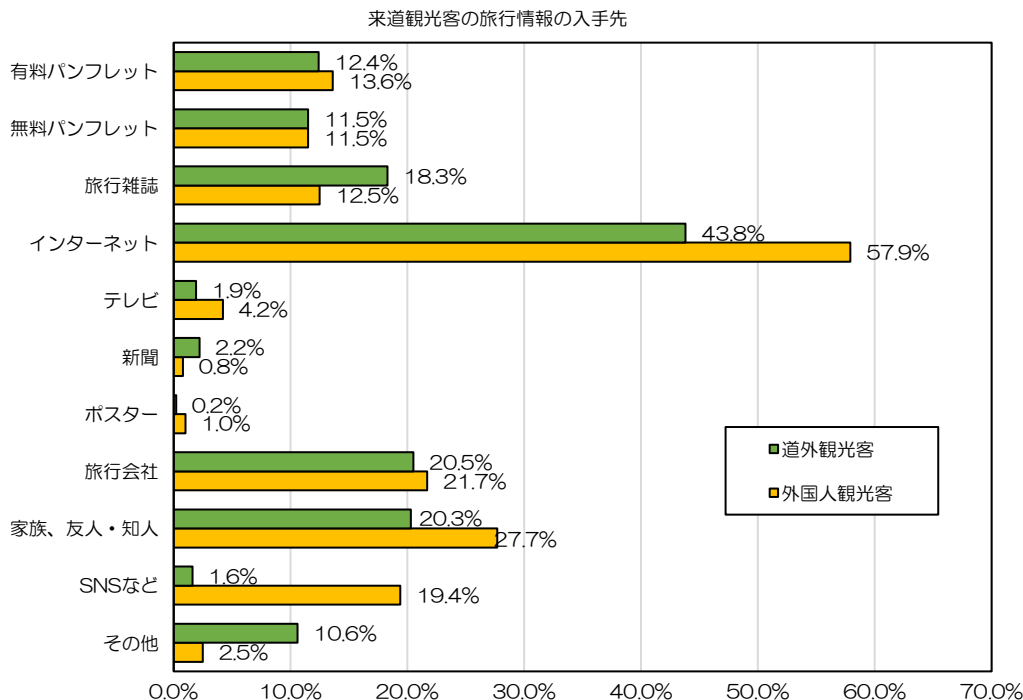
宿泊先の手配方法をみると、「インターネット」を利用した割合が道外の観光客で44.4%、外国人観光客で56.6%と最も多い一方、「旅行代理店などの窓口」で手配した割合は、道外の観光客で30.2%、外国人観光客で34.2%という結果となった。

来道観光客の旅行の手配方法



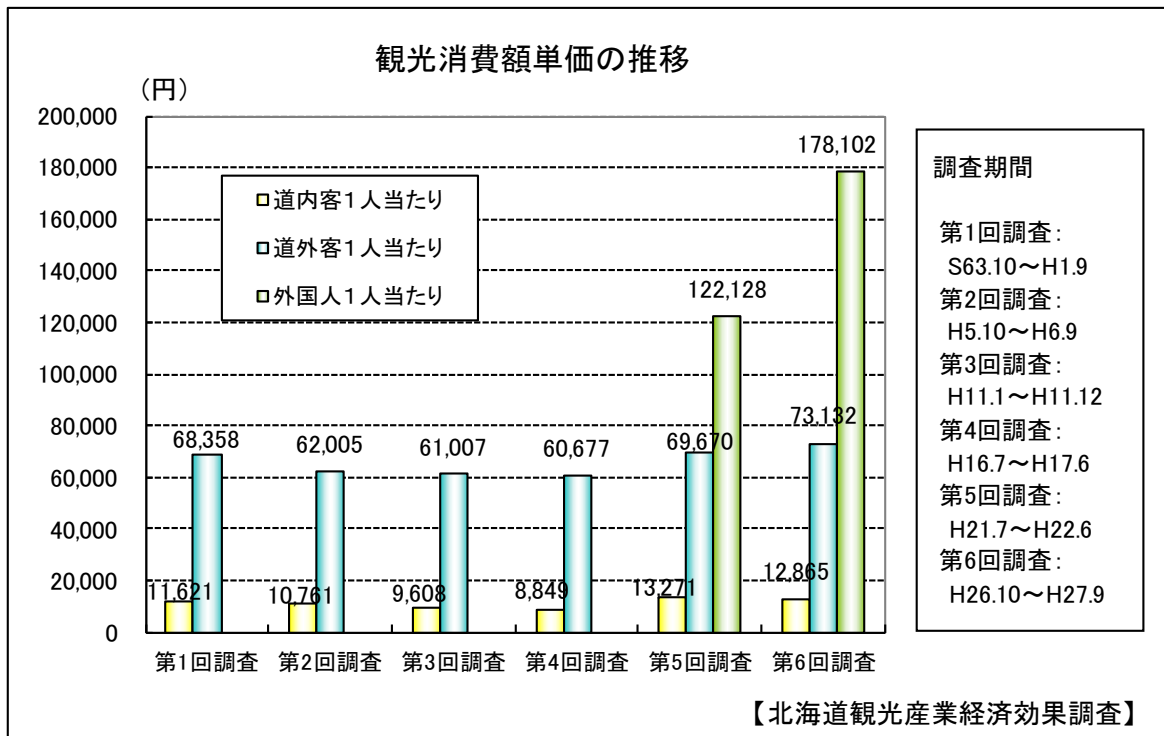
■ 旅行情報の入手先もインターネット

旅行情報の入手先をみると、道外の観光客、外国人観光客ともに「インターネット」が最も多い結果となった。



■ 観光消費額単価

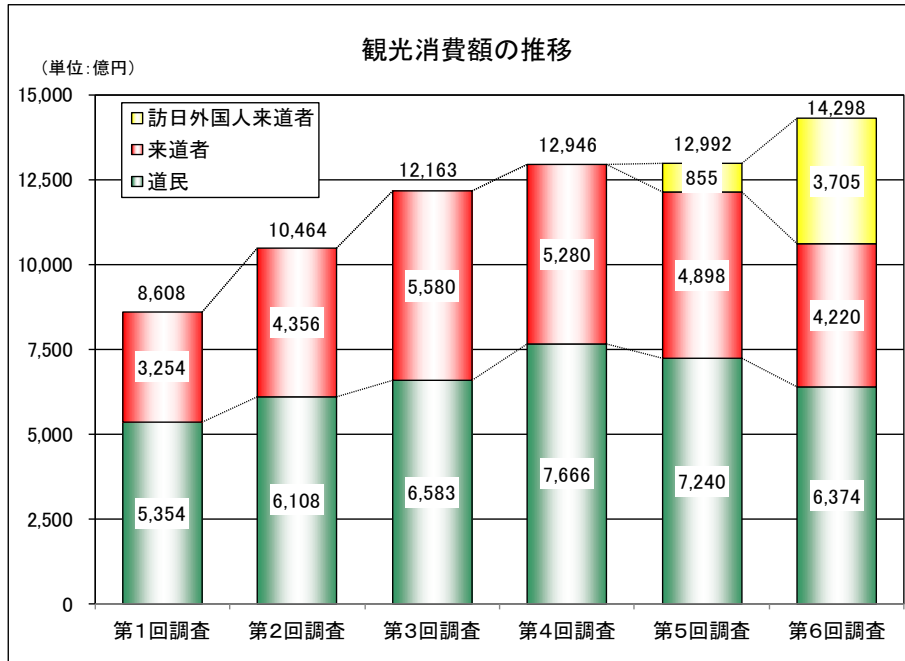
観光客が1回の観光行動で消費する金額をみると、道内客は12,865円、道外客は73,132円、訪日外国人来道者は178,102円となった。



(3) 観光産業の状況

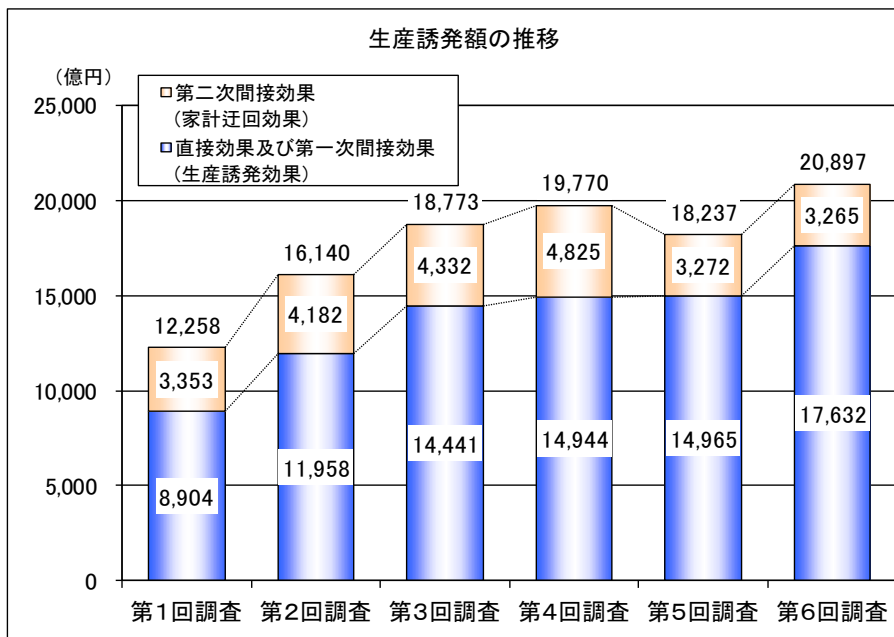
■ 観光消費額は増加基調

北海道の総観光消費額は1兆4,298億円で、第1回調査以来ほぼ増加基調にある。このうち道民による消費額は6,374億円、来道者による消費額は4,220億円、訪日外国人来道者による消費額は3,705億円となっている。

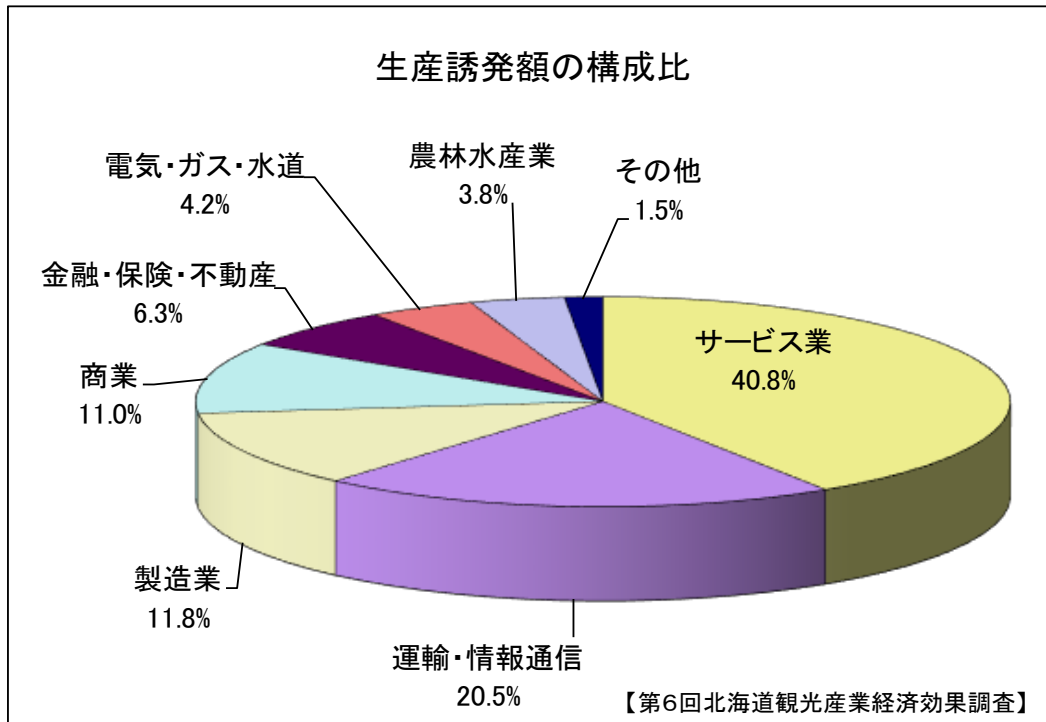


生産誘発額は2兆897億円と推計され、このうち観光消費によって道内での原材料やサービスの生産に波及する直接効果と第一次間接効果の和が1兆7,362億円、観光消費がもたらす雇用者の所得の増加が道内での新たな消費を生み出し、生産に波及する第二次間接効果が3,265億円と推計された。

観光消費がもたらす生産波及効果はサービス業、運輸・情報通信業、製造業をはじめとする様々な産業に波及している。

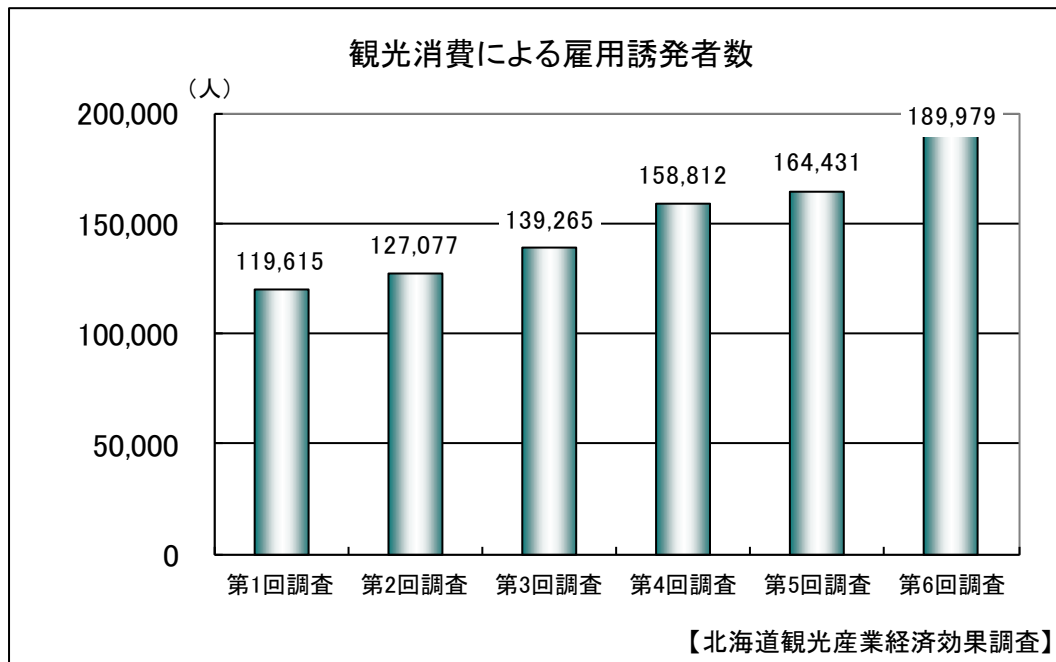


※第1回から第5回までの調査においては、直接効果と第一次間接効果の和を「生産誘発効果」とし、第二次間接効果を「家計迂回効果」としていた。



■ 雇用効果は19万人

観光消費による2兆897億円の生産誘発額は、189,979人の雇用効果を生み出すと推計された。これは平成26年度道民経済計算における道内就業者数235万4千人の8.1%に相当する。



■ 宿泊業の状況

平成 29 年 3 月末現在、北海道で旅館業法の許可を受けているホテル、旅館、簡易宿所は 4,830 施設となっている。また、観光庁の宿泊旅行統計調査によると、従業者 10 人以上の宿泊施設は 665 施設 (H29.1 現在) であることから、道内の宿泊施設の 8 割以上が従業者 9 人以下の小規模な施設であるといえる。

平成 23 年度と比較すると、ホテルは施設数で 2.4%、定員数で 11.4%増加しているが、旅館はそれぞれ 14.5%、13.4%減少している。全体では、施設数、定員数ともほぼ横ばいとなっている。

宿泊施設数と定員数の推移

(単位：軒、人、人泊)

区 分		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	H28/H23
ホ テ ル	施設数	679	684	681	689	679	695	102.4%
	定 員	120,834	122,861	124,559	126,121	128,024	134,645	111.4%
うち都市部	施設数	385	384	384	390	375	384	99.7%
	定 員	74,456	75,905	77,045	79,805	80,423	84,620	113.7%
旅 館	施設数	2,622	2,551	2,482	2,391	2,285	2,241	85.5%
	定 員	166,348	162,511	157,970	151,939	148,146	144,095	86.6%
うち都市部	施設数	542	520	519	502	453	441	81.4%
	定 員	41,678	41,249	41,213	39,924	38,684	36,660	88.0%
簡易宿所	施設数	1,600	1,603	1,645	1,720	1,770	1,894	118.4%
	定 員	32,007	32,094	32,857	34,180	34,636	37,028	115.7%
うち都市部	施設数	205	201	209	217	206	229	111.7%
	定 員	5,764	5,558	6,006	6,284	6,232	7,095	123.1%
合 計	施設数	4,901	4,838	4,808	4,800	4,734	4,830	98.6%
	定 員	319,189	317,466	315,386	312,240	310,806	315,768	98.9%
うち都市部	施設数	1,132	1,105	1,112	1,109	1,034	1,054	93.1%
	定 員	121,898	122,712	124,264	126,013	125,339	128,375	105.3%

※ 1 都市部：札幌市、小樽市、函館市、旭川市、網走市、帯広市、釧路市の 7 市

※ 2 各年度 3 月末現在

【北海道保健福祉部健康安全局食品衛生課】

■ 旅行業者の状況

道内に主たる営業所がある旅行業者の登録数は、平成 29 年 3 月末現在 325 となっており、前年度より増加している。

道内に主たる営業所のある旅行業者

登録区分	登録行政庁	業務の範囲	H26年度	H27年度	H28年度
第1種	観光庁長官	・海外・国内の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	21	21	22
第2種	北海道知事	・国内の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	107	113	115
第3種	北海道知事	・国内(区域限定)の募集型企画旅行 ・海外・国内の受注型企画旅行 ・手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	129	135	148
地域限定	北海道知事	・国内(区域限定)の募集型企画旅行 ・国内(区域限定)の受注型企画旅行 ・国内(区域限定)の手配旅行 ・受託契約に基づく代理販売	7	8	7
代理業	北海道知事	・受託契約に基づく代理販売	33	33	33
計			297	310	325

※ 各年度、3月末現在

【国土交通省北海道運輸局・北海道経済部観光局】

■ 旅客輸送業の状況

平成27年度の旅客輸送人員を平成22年度と比較すると、道内においては、JR、鉄道・軌道、船舶及び航空が増加した一方、自動車は減少した。道内一道外間においては、航空、船舶が増加した一方、JRは減少した。

道内主要空港の航空機輸送実績については、東京・関西方面とも輸送人員は平成23年度まで減少傾向にあったが、平成24年度から増加傾向にある。

機関別輸送人員の推移（道内）

（千人）

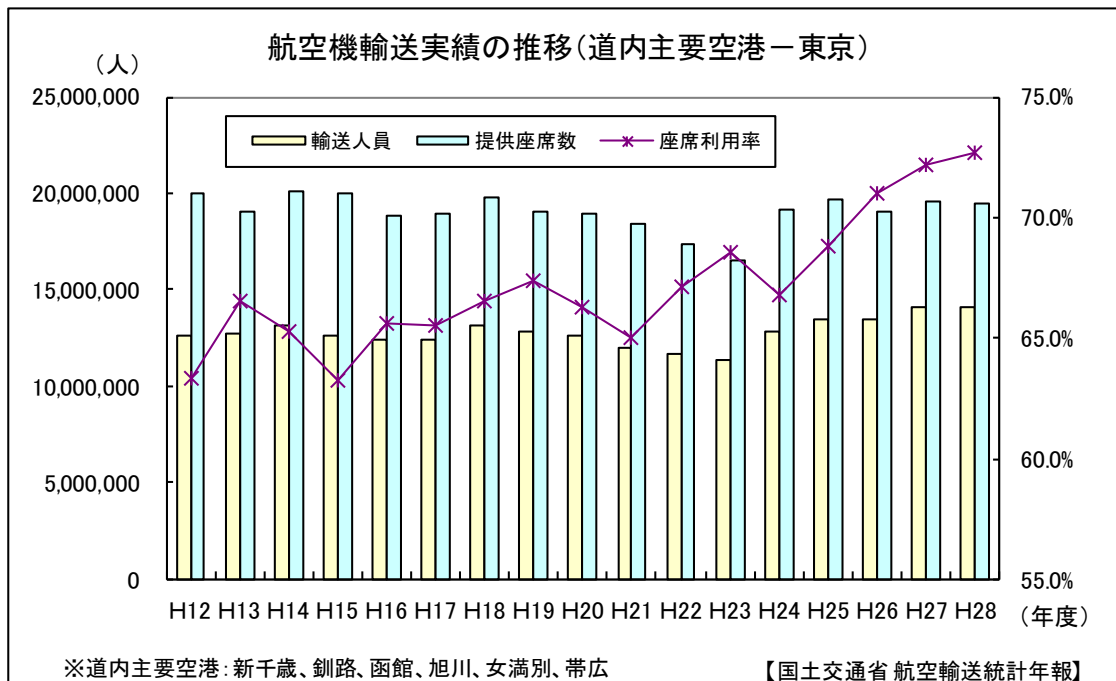
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	H27/H22
JR	125,497	127,600	129,668	132,640	130,168	133,001	106.0%
鉄道・軌道	215,573	214,629	219,897	224,614	227,760	231,794	107.5%
自動車	322,304	317,708	317,271	318,344	310,585	309,850	96.1%
船舶	1,573	1,422	1,515	1,551	1,483	1,603	101.9%
航空	638	621	591	666	674	674	105.6%
合計	665,585	661,980	668,942	677,815	670,670	676,922	101.7%

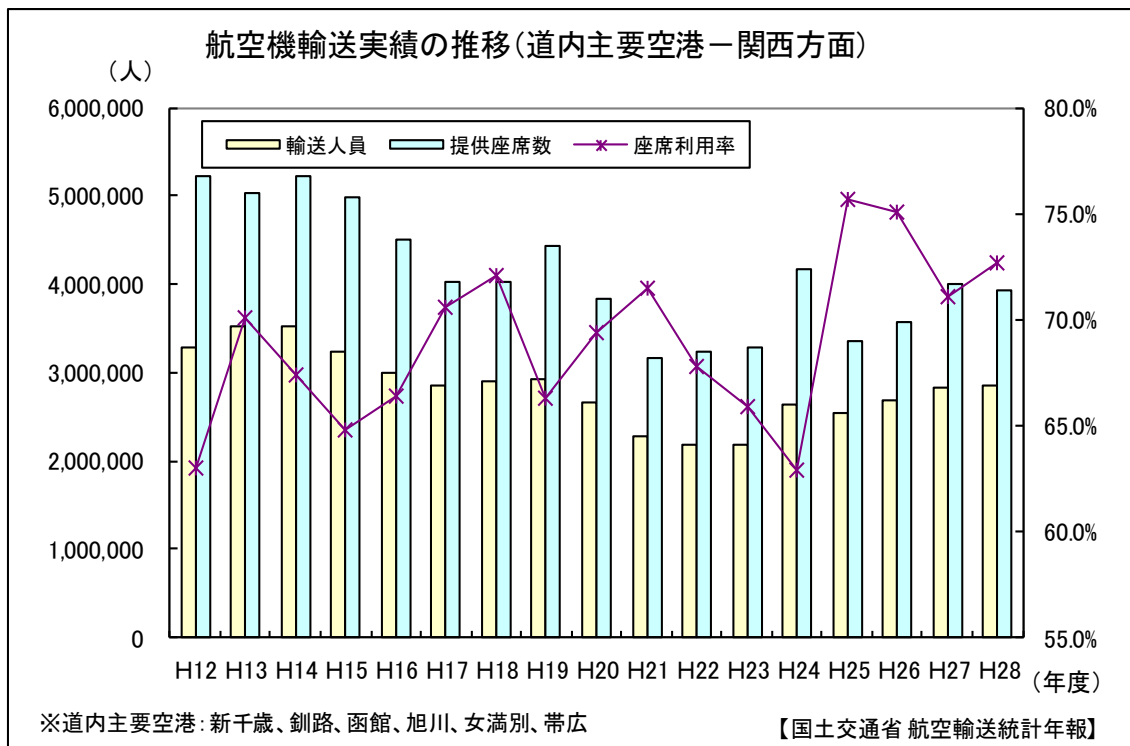
機関別輸送人員の推移（道内一道外）

（千人）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	H27/H22
JR	1,480	1,321	1,458	1,466	1,369	1,379	93.2%
船舶	1,695	1,723	1,729	1,730	1,663	1,725	101.8%
航空	18,064	17,350	19,112	20,173	20,377	21,132	117.0%
合計	21,239	20,394	22,299	23,369	23,409	24,236	114.1%

【数字でみる北海道の運輸（北海道運輸局）】





■ 貸切バスの状況

平成27年度の貸切バス(観光バス)の事業実績を平成22年度と比較すると、業者数は減少しているが、車両数、輸送人員は増加しており、走行キロはほぼ同水準となっている。

貸切バスの事業実績

(台・千回・千人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	H27/H22
業者数	267	268	263	264	258	261	97.8%
車両数	2,838	2,767	2,757	2,888	3,003	3,133	110.4%
走行キロ	102,789	92,707	103,515	110,570	105,468	104,379	101.5%
輸送人員	14,880	14,950	16,169	18,036	17,443	16,505	110.9%

【数字でみる北海道の運輸(北海道運輸局)】

平成29年度 観光局の施策体系

(単位:千円)

事業名	事業費
○ 地域観光活性化促進事業	81,024
○ 広域観光推進事業	108,363
○ 観光商品づくり開発コンベンション事業	4,104
○ 北海道教育旅行活性化事業	37,732
○ 体験型観光持続化促進事業	19,387
○ アウトドア活動振興環境整備事業	468
○ 日本版DMO形成促進事業	16,607
◎ DMO取得に向けたマーケティング強化事業	[交付金]
○ 広域観光周遊ルートビジネスマネジメント形成事業	51,180
○ きた北海道広域観光周遊ルート地域観光創出事業	27,259
○ 北海道周遊大動脈形成実証事業	51,707
○ LCC地方空港誘致による誘客拡大事業	97,405
◎ 新たなインバウンド誘致企画調査事業	15,000
◎ ハリアアリ観光推進事業	29,797
○ ホスピタリティ向上事業	7,403
○ アウトドア活動振興環境整備事業(再掲)	4,697
○ だもこ旅サロンの運営・利用促進事業	-
○ 実践的インバウンドおもてなし人材育成事業	12,720
○ インバウンド対応観光ルート創出事業	[交付金]
○ インバウンド受入体制整備事業	63,270
○ 新千歳空港国際観光案内所運営事業	11,729
○ 北海道さっぽろ「食と観光」情報館運営費	26,764
○ 観光関連施設等投資促進事業	37,364
○ 北海道観光を支える人材の育成・確保事業	[交付金]
△ 北海道観光推進事業	80,537
○ 北海道観光誘致推進事業(区内分)	121,623
○ 地域事業者等との連携による交流人口拡大事業	[交付金]
○ 地域連携等による道外誘客促進事業	143,239
○ 閑散期誘客拡大事業	161,777
○ 北海道ロケーション誘致推進費	14,000
○ 北海道教育旅行活性化事業(再掲)	391
○ 首都圏マスコミメディア等を活用した情報発信強化事業	-
◎ 北海道観光誘致推進事業	53,116
○ 北海道観光誘致推進事業(国際分)	19,644
○ 北海道観光誘致推進事業(国際分)	34,557
○ 北海道観光成長市場開拓促進事業	75,987
○ 北海道観光成長市場誘客促進事業	72,753
○ 北海道観光成長市場誘客促進事業	70,945
◎ 北海道スポーツツーリズム戦略的誘客促進事業	43,822
○ クロスメディア観光プロモーション事業	18,616
○ 国際観光新商品開発・脚売促進事業	22,329
○ 北海道MICE誘致促進事業	21,298
○ コンベンション誘致促進事業	12,579
○ 北海道ロケーション誘致推進費(再掲)	-
○ 北海道LOVERS拡大推進事業	[交付金]
○ 観光統計調査事業	2,933
○ 観光振興諸費	480

施策の展開方向	事業名	事業費
自然環境など地域の資源を生かした滞在型の観光地づくり	○ 地域観光活性化促進事業	81,024
地域の資源を生かした観光地づくり	○ 広域観光推進事業	108,363
満足度の高いサービスの提供	○ アウトドア活動振興環境整備事業	468
道外からの誘客促進、道民の道内旅行の活性化	○ 北海道観光誘致推進事業(区内分)	121,623
国内外への効果的な誘客活動による旅行市場の拡大	○ 北海道観光誘致推進事業(国際分)	34,557
ターゲットを定めた戦略的な海外からの誘客促進	○ クロスメディア観光プロモーション事業	18,616
観光振興の基盤強化	○ 観光統計調査事業	2,933
マーケティングデータの収集や普及啓発	○ 観光振興諸費	480

行動指針	事業名	事業費
地域にこだわり連携して地域の魅力を高める	○ 地域観光活性化促進事業	81,024
交通利便性の向上	○ アウトドア活動振興環境整備事業	468
環境の保全と活用	○ 北海道観光誘致推進事業(区内分)	121,623
地域への愛着と歴史や文化の継承	○ 北海道観光誘致推進事業(国際分)	34,557
食文化の育成	○ クロスメディア観光プロモーション事業	18,616
地域資源の発掘と観光の価値の向上	○ 国際観光新商品開発・脚売促進事業	22,329
おもてなしの心で交流する	○ コンベンション誘致促進事業	12,579
ホスピタリティの向上	○ 北海道ロケーション誘致推進費(再掲)	-
ふれあい、交流の推進	○ 北海道LOVERS拡大推進事業	[交付金]
受入環境の整備	○ 観光統計調査事業	2,933
サービスの質の向上	○ 観光振興諸費	480
地域魅力を戦略的に発信する	○ 北海道観光誘致推進事業(区内分)	121,623
道民一人ひとりが観光の担い手	○ 北海道観光誘致推進事業(国際分)	34,557
戦略的な情報発信とプロモーション	○ クロスメディア観光プロモーション事業	18,616
東北との連携	○ 国際観光新商品開発・脚売促進事業	22,329
観光案内機能の充実	○ コンベンション誘致促進事業	12,579
多様な旅行メニューの提供	○ 北海道ロケーション誘致推進費(再掲)	-
	○ 北海道LOVERS拡大推進事業	[交付金]

現状・課題	目標	行動計画のポイント
<ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会の到来 外国人観光客の急増 期待度を下回る満足度 滞在型観光による交流人口の増加、観光消費の拡大 地域の稼ぐ力を引き出す 日本版DMOの形成促進 急増する外国人をはじめとする観光客の受入体制整備 質の高いサービスの提供による満足度の向上 季節的偏在の平準化、地域偏在の解消 北海道新幹線開業効果の継続及び全道波及 広域観光周遊ルートの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境など地域の資源を生かした滞在型の観光地づくり 国内外への効果的な誘客活動による旅行市場の拡大 観光振興による地域と経済の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが安心して快適に旅行できる受入体制づくり 何度でも、1日でも長く繰り返し滞在いただける観光地づくり 国際競争力を有する質の高い観光地づくり LCC就航や新幹線開業効果を最大限に活用 道民のさらなる道内旅行の促進 誘致対象国・市場の特色に対応したきめ細かいプロモーションの推進

観光予算計	2,050,030	(機構負担金)	1,565,910
【観光局事業	1,762,655	他部局事業	297,375】

◎=新規、○=継続、【交付金】=地方創生推進交付金、△=地域創生人材育成事業